

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890300126
法人名	有限会社ケアサポートさくら
事業所名	グループホームしおり(風)
所在地	愛媛県宇和島市丸穂甲937-15
自己評価作成日	平成28年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『共に生きる』の介護理念のもと、利用者の思いに重点を置き、その人らしい生活を送って頂けるよう努めている。宇和島市内を一望できる環境で、四季折々違った風景を楽しめる。近くには小学校、保育園があり、子供たちの元気で活気のある声が聞こえてくる。継続的な交流も持っている。地域行事などには積極的に参加し、利用者とともに地域に出向く機会も大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市街を一望できる高台にあり、グループホームあかりと法人事務所に併設された、木造2階建ての建物で、玄関は吹き抜けで明るく、家庭的な雰囲気づくりに努めている。運営推進会議には多くの地域住民や退所後協力関係のある家族の参加もあり、地域住民や家族の信頼関係が構築されている。小学校や保育園等の交流に恵まれ、年間を通じて頻回に交流が図られている。経営者も職員の研修の機会を確保することで、質の向上を図っている。医療面では協力医の往診により利用者の健康状態が管理され、重度化が進んでも、さらに、終末期になっても事業所で暮らし続けたいと希望している利用者や家族が多く、高く評価できる点である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 GHしおり

(ユニット名) 風

記入者(管理者)
氏名 伊藤浩明

評価完了日 平成 28 年 10 月 7 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 年に一度介護理念を職員で相談して作成し、常にリビングに掲示して確認できるようにしている。職員が共有し、実践するように努めている。	
			(外部評価) 「共に生きる」という理念を事業所の玄関に掲示する他、毎月発行の便りに理念を掲載し、利用者や家族に周知するよう工夫している。理念についてミーティング等で話し合いを行い、さらに理念を踏まえた各ユニットの毎年の目標を職員と話し合い掲示している。新人職員には、法人の新人研修や事業所のオリエンテーションで、理念の趣旨を説明し共有するようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に入り、地域の行事ごとには積極的に参加し、ホームの行事のご案内をしている。高齢者サロンや保育園、小学校、公民館との交流は定期的を実施している。近隣の八百屋、肉屋、魚屋、パン屋の来訪が定期的であり、馴染みになっている。	
			(外部評価) 自治会に加入し、地域との交流に積極的に取り組んでいる。民生委員の方の声かけで、事業所の1階で地域高齢者が集う高齢者サロンを年2回開催し交流をされている。地域のお祭りには、神輿や牛鬼が入ったり、亥の子等、年間の地域行事は利用者の楽しみとなっている。また、小学校や保育園の運動会に参加して、利用者もパン食い競争に出場したりしている。保育園児を招いて駄菓子屋を行ったり、畑で芋の収穫を利用者と一緒に行ったり、定期的に交流が図られている。近隣の八百屋、肉屋や魚屋が訪問販売に来て、利用者は職員と一緒に野菜や肉、魚などの食材選びをするのが楽しみの一つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症の方と介護されている家族さん等、悩みを相談し話し合える機会がある。広報を近隣の方や地域に配布し、ホームでの暮らしを伝えることで理解して頂いている。笑みちゃんカフェ(認知症カフェ)を開催しており、地域の方やケアマネジャー、見学者等がみられるようになった。地域行事でホームを開放している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一度開催し、事業所の取り組みやサービス状況を報告するとともに、課題や今後の取り組みについて意見交換し、サービスの向上に努めている。参加したことのない職員もいるので、ミーティングで事後報告もしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、家族のほか、利用者退所後も協力関係にある家族、市職員、民生委員、保育園長等様々な方の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、行事等の活動報告や地域の情報収集や災害対策等、参加者の要望や意見交換を行っている。欠席の家族には、会議概要を取りまとめて送付し内容を確認してもらっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の研修や会議には参加している。担当職員との連絡や連携は取り合っている。わからないことや対応に困ることがあれば市の担当職員に相談している。運営推進会議にも参加していただき、意見をいただいている。	
			(外部評価) 市職員は運営推進会議に出席し、事業所の実情を把握すると共に情報の提供や助言を行っており、分からないことや疑問点等は相談し、メールや電話連絡を行っている。認知症研修会の開催やグループホーム連絡会等の連絡もあり、参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について理解し、拘束はしていない。日中は、施設の施錠はしていない。新人研修や外部研修で知識を深め、身体拘束をしないケアに努めている。	
			(外部評価) 身体拘束についてのマニュアルを作成しているほか、研修参加を促進し、参加の職員は職員会等で全員に報告している。また、利用者一人ひとりの状態を職員間で確認すると共に、声かけ等についても十分話し合っている。利用者の安全確保のため、家族に同意の上ベッドからの落下防止等の策を取っているが、利用者はベッドの昇り降りは自由である。玄関は自由に入ることができ、開き戸が開くと1階フロアにチャイムが鳴り、職員の来客対応は迅速である。	職員一人ひとりが利用者の安全を確保し自由な暮らしを支援するために、身体拘束をしないケアについて職員間で話し合う機会を持ったり勉強会を継続するなどし、意識改革を行うなどの取組みに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新人研修や外部研修等から高齢者虐待の知識を深め、虐待のないケアに努めている。対応に困った時は時間を置いたり、職員で交代しケアに当たっている。全身状態をよく観察し、変化があった時は報告している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を受け理解している。さまざまな制度が必要になりそうな時や、必要になった時は相談し、対応できるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分な説明と理解に努め、お互いが納得して入所して頂けるようにしている。不明な点や質問などは、事前にゆっくりとお話を聞くように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日頃の面会や、運営推進会議等から、家族の方や関係の方に意見を聞けるように努めている。意見が言いやすいようなコミュニケーションを心がけている。 (外部評価) 家族からは、面会時や病院受診時の待ち時間に話を聞くようにしている。利用者には、日々の暮らしの中で要望を聞いている。事業所では毎月広報誌を発行しており、利用者の日々の暮らしや行事の写真を載せて報告している。家族の面会時には、利用者と一緒に食事ができるよう配慮している。	事業所では、夕涼み会等の行事に家族に参加をしてもらい、家族間の交流を図っているが、お互い名前を知らないこともあり、管理者は、家族の意見や要望を出しやすくするため、家族が自主運営する会を持ちたいと考えている。家族同士のつながりを大切にしながら、家族の本音を聞き取り、意見や要望が利用者のケアに反映できるよう、家族会が定期的開催されることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会やミーティングで意見交換を行っている。夜間などは施設長と1対1で話しやすい環境もあり、意見交換ができる。 (外部評価) 職員全員と法人代表者の施設長も参加して、毎月1回ミーティングを開催し、運営に関する意見を出し合っている。また、施設長は日常の業務の中で管理者や職員の意見に耳を傾け、気軽に意見が言える環境が整えられている。法人では職員の質の向上を図るため、費用の補助や勤務の調整を行い研修を受けやすくしたり、資格取得も積極的に推進するなど支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 各種手当、リフレッシュ休暇や資格取得の助成、各自がスキルアップできる環境が整えられている。職員の状況に合わせてシフトを考慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修には積極的に参加できるよう、声かけ案内をしている。新任者には、社内研修も開催している。委員会活動により、職員一人一人の活躍の場がある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近隣のグループホームの行事や運営推進会議に相互に参加し、交流を図っている。協会の相互研修を通して、他のホームの活動を参考にしたり、サービスの質を向上させる努力をしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前にカンファレンスを開催し、職員間で情報の共有をしている。事前のカンファレンスの内容で先入観を持たないよう心がけている。入所後は不安を和らげるよう話をゆっくり聞き、コミュニケーションを図っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会時等には、家族の意向や話を聞けるように努めている。要望などがあれば対応できるように努め、日誌等を活用し、職員間でも共有できるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 今必要とされている支援について家族や本人、職員間で話し合い、適切なサービスが利用できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者9名と職員の生活に馴染みができて、また信頼関係も築けており、積極的に家事をされるようになってきている。皆が助け合いながら生活を共にしている場面もある。人生の先輩である利用者から学ぶことも多くあり、共に助け合いながら生活している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の状態の変化や要望など家族へ報告相談し、今後のことを決めるようにしている。職員間で情報を共有し、家族にもホームの行事に参加してもらい、本人・家族・職員の関係づくりに努めている。面会時には家族にゆっくり部屋で過ごしていただけるよう配慮している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の協力と職員の支援で、外出、通院、自宅に寄ったり、馴染みの地域をドライブしたり、美容室へ行ったり、馴染みがある所との関係が途切れないように努めている。 (外部評価) 入居時に馴染みの人や場所の情報を家族から聞き取り、関係が継続できるよう支援している。馴染みの美容室等職員が付き添っているが、家族の協力を得てお盆のお墓参りや昔からの友達に会うこともできている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションや体操を通じて利用者同士の交流の場を持ち、会話が弾み、楽しい時間を過ごせるように努めている。月に1度合同レクリエーションを開催し、利用者同士の交流や楽しみがあるように努めている。はまゆうの会(男子会)を月に1度開催している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方のご家族が運営推進会議に参加して下さったことがあった。入院での退所などでは、お見舞いに行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の支援の中でやりたいことを聞いたり、思いを聞き、聞いたことは記録やシートに残している。 (外部評価) 利用者の日頃の会話や家族から情報を聞いて思いや意向を把握し、利用者が何をしたのか等を常に考えながら支援に繋げている。また、利用者の具体的な様子や場面、言葉やしぐさ等を記録に残し職員間で共有し、誕生日には利用者の意向通りに過ごせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族、ケアマネージャーなどから話を聞き、職員間で共有している。フェイスシートやアセスメントシートを活用し、職員がいつでも見られるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) センター方式を参考にした記録を活用し、現状の把握と情報共有に努めている。日々のケアプランの実施状況のチェックを行い、モニタリングでは現状と対策について話し合っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 毎月モニタリングし、全職員で話し合っている。介護計画は、 家族にも意向を聞き作成している。	
			(外部評価) 利用者毎に担当者が配属されており、ユニット会で利用者や家 族の要望等をもとに職員全員で話し合い毎月モニタリングを行 うなどし、利用者本位の介護計画に繋げている。介護計画の見 直しは基本6か月毎にしており、状態に変化がある場合はその 都度見直している。介護計画に沿って実践できているかどうか については、分かりやすいよう記録に残し、職員全員が共有す るようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 24時間シートや健康チェックシート等により情報を共有し、介 護計画に繋げている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) できる限り、本人や家族のニーズに応えられるよう努めてい る。個別に病気に応じて食事内容や料金設定を工夫している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 多くのボランティアの訪問があったり、地域サロンや、住民の 方、保育園、小学校、地域の行事に参加している。防災訓練で は地域の消防署、消防団の協力を得て利用者の安全な暮らしに つながるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人・家族の意向に合わせて適切な医療を受けられるよう、家 族と協力しながら支援している。 協力医の訪問診療は月2回あり、心強い協力のもと、医療機関 との連携は十分図れている。 (外部評価) 月2回の協力医の往診があるため、入居時にかかりつけ医を変 更する利用者が多い。耳鼻咽喉科や整形外科等の専門外来に通 院する場合は、職員と家族が付き添っている。また歯科の往診 もあるが、入居前のかかりつけの歯科を希望する場合も継続し て受診できるよう配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職場内の看護師がいるため、常に相談、報告し、支援に当たっ ている。利用者の些細な対等の変化などから気づきや情報を提 供し適切に受診ができるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は情報提供をし、本人にも安心してもらえるよう面会に も行っている。退院時はカンファレンスにより、安心してホー ムに復帰できるよう家族、医療関係者と連携を取っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族や主治医と連携を取りながら、できること・できないこと を含め、終末期に向けた方針を共有している。随時家族の意見 を確認しながら、ともに支援に取り組んでいる。 (外部評価) 重度化した場合の対応指針があり、職員全員が理解し入居時に 看取りの意向を確認し、重度化した場合はその都度説明を行い 家族の同意を得ており、今までに利用者や家族の要望に応え4 名の看取りを行っている。終末期には家族も寝泊りできるよ う環境を整えるなどの配慮をしている。また重度化や看取りにつ いての研修会に参加し報告会を行ったり、看取りを経験してい る職員が話をするなどスキルアップに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修等に対応について学び、看護職員とも情報交換しながら実践につながるよう取り組んでいる。AEDを設置している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年三回、さまざまなケースを想定し避難訓練を実施しており職員全員が対応できるように取り組んでくんでいる。 (外部評価) 年3回の避難訓練を実施している。その内1回は併設するグループホームと合同で消防署の立会いで行われている。事業所単独の避難訓練には、地域の消防団に参加してもらい具体的な助言を得ており、協力体制ができています。運営推進会議で防災対策について協議したり、利用者と職員が地域の防災訓練にも参加するなど、地域住民の協力を得られるように努めている。水や米などの備蓄品も完備されている。また緊急連絡網は整備されているが、実践訓練には至っていないので今後の課題である。	災害時の地域の消防団との協力体制は構築され、職員の災害対策についての意識は高いが、緊急連絡網の実践訓練を行っていないため、連絡体制の再確認をする意味でも職員に緊急連絡網の周知徹底を望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩であるという意識を持ち日常の言葉遣いや対応の仕方はプライドやプライバシーを配慮するように心がけている。 (外部評価) 職員は日頃から「尊敬の念」を持ち利用者本位のケアに努めており、馴れ合いにはならないよう十分気を付けている。入浴やトイレでの排泄時などのケアにおいては、利用者の自尊心を傷つけず意向に沿った支援ができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 希望などを言いやすい環境づくりを心がけたり、時には自己決定できる状況づくりを心がけている。利用者が出来る事は見守りまたは、一緒に行うことで達成感が持てるよう関わっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思に沿って対応し、本人のペースを大切にし、不安のないように過ごせるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族が服を持って来てくれたり、同じ服を着ないようにおしゃれができるよう支援している。ボランティア散髪サービスや、外部の美容院等の利用をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立に沿って一緒に調理の準備をしたり、畑で収穫した野菜などを使ったり、片づけも率先してされたりしている。好き嫌いを把握し、無理強いはせず楽しくおいしく食事ができるよう支援している。外食やお弁当日を設けたり食事中に音楽を流したりなど、楽しい食事を心がけている。	
			(外部評価) 施設長が栄養士で栄養管理が十分された献立を立てている。野菜や肉は配達であるが、魚は訪問販売で利用者と職員と一緒に選び利用者の楽しみとなっている。また庭の畑の新鮮な野菜も食材として使っており、利用者も収穫を手伝っている。職員も食卓と一緒に囲み、介助をしながら同じメニューを食べている。利用者の嚥下機能に応じ食事形態を変えたり、病気食を1日1回家族の協力を得て提供するなど工夫している。誕生日に寿司の外食や祭り等に行事食を作るなど、食事が楽しみになるような支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量をチェックし、必要に合わせてお茶の回数を増やすなど、脱水の予防に努めている。刻み食、お粥、トロミ食、栄養補給など、一人一人に合った形で食事の提供を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の歯磨きや義歯洗浄等、口腔内の清潔保持に努めているが十分でない方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンや本人の習慣などに配慮し、トイレやポータブルトイレ等も活用している。プライバシーにも配慮し声かけや誘導を行っている。必要な部分の支援をするよう心がけている。	
			(外部評価) 紙パンツの利用者が多いが、利用者の排泄パターンを把握し極力トイレで排泄できるよう支援している。オムツ交換はまめに行い、残存機能や機能回復を考慮し居室でポータブルトイレを使用するなど、利用者に配慮した柔軟な対応に努めている。夜間は睡眠を優先しているが、トイレでの排泄ができる利用者には可能な限りトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給を促し、牛乳やヤクルト、菓を飲む、腹部のマッサージや医師の指示などその人に合わせた予防に努めている。散歩や運動もするようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿って、日中入浴できるようにしている。入浴の苦手な利用者には、声かけの仕方や時間を工夫し、ご本人のペースで入浴できるよう支援している。曜日や時間帯は決めていない。	
			(外部評価) 希望に応じ毎日入浴も可能で、利用者の負担に配慮しながら、清潔を保つために週2～3回は入浴できるよう支援している。入浴の苦手な利用者には、時間を変えたり声かけの工夫をするなど、無理強いすることなく入浴できるよう努めている。車椅子利用者の特殊浴槽での入浴、同性の介助を希望する場合の対応、入浴剤の使用やゆず湯、気泡発生装置付特殊浴槽の設置など様々な配慮がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 温度や湿度、布団の種類に気を付けてその時々で対応している。体調、睡眠のパターンや本人が休みたい時等の状況を把握し、必要であれば誘導している。共有スペースのソファも活用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の変更やチェックについては情報を共有し、個別に保管している。担当者が一人一人の服薬を調整し、また、服薬時は見守り・確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 誕生会や行事などで利用者の気分転換や興味のある日を過ごせるよう支援している。散歩や外出も多い。調理、包丁研ぎ、散歩、生け花など、個々の好きなこと得意なことにやを生かせるよう努力している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の気分や状態、天候に合わせて臨機応変に対応している。土地柄や季節を感じられる場所への外出も大切にしている。車いすを利用し、身体に負担のかからない方法もとっている。地域行事や自宅、商店などにでかけている。	
			(外部評価) 花見やドライブ等の外出計画を立て、年間を通して気分転換が図れるよう努めている。日常的には利用者の希望に応じ、商店街に補聴器や時計等の買い物に外出したり、病院受診時に開通した九島大橋までドライブをしている。また事業所の庭の桜を見ながら弁当を食べたり、地域の夏祭りが見物できるようアーケードのいい場所を確保したりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者からの要望があれば買物に行き、本人に支払ってもらう方もいる。本人が手元にお金を持っている方と持っていない方がいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯やホームの電話で電話できる。 手紙を書く方もおられ、職員が投函している。代筆する場合もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングを気持ちよく過ごせるようテーブルなどの工夫をしている。ホールやデッキを利用して広い空間で活動できる工夫をしており、思い思いの場所で過ごすことが多い。季節を感じ飾り付けなどを行い、温度や湿度に注意し、居心地の良い空間づくりに努めている。キッチンの様子がすぐわかり調理の音や匂いで聴覚や味覚に刺激をあたえている。	
			(外部評価) リビングルームから庭の芝生広場、宇和島城、市街地や海が眺められ、明るいスペースでゆっくりくつろぐことができる。玄関を入ると2階までが吹き抜けになっており、生け花が飾られソファが置かれるなど、明るく居心地のいい共用空間となっている。2か月毎に利用者と職員と一緒に図書館で本や紙芝居を借りており、廊下にコーナーを作り好きな本を選び楽しめるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 座席の配慮やソファを置くことで自由に過ごせる場所の工夫をしている。ホールのソファに座って、ゆったりされている方もいる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が馴染みの物（鏡台、タンス、テレビ、写真、椅子等）を揃えられ、自宅に近い生活空間で暮らすことができている。	
			(外部評価) ベッド、エアコン、クローゼット、洗面台が備え付けられている。愛用のタンスや鏡台、仏壇、テレビ、ソファや椅子等も持ち込まれ、居心地よく過ごせるようになっている。トイレ付きの居室を1室設置しており、利用者の要望に応じ利用できるよう配慮している。居室は開き戸で暖簾がかけられ自室の確認がしやすいような工夫や、1階の居室は掃き出し窓からデッキにも出られるようになっており利用者は気に入っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ、風呂場などわかりやすいよう、看板や文字で表示している。段差も限りなく少なく、昼間も廊下の電気をつけておくなど、安全な環境づくりに努めている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890300126
法人名	有限会社ケアサポートさくら
事業所名	グループホームしおり(空)
所在地	愛媛県宇和島市丸穂甲937-15
自己評価作成日	平成28年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『共に生きる』の介護理念のもと、利用者の思いに重点を置き、その人らしい生活を送って頂けるよう努めている。宇和島市内を一望できる環境で、四季折々違った風景を楽しめる。近くには小学校、保育園があり、子供たちの元気で活気のある声が聞こえてくる。継続的な交流も持っている。地域行事などには積極的に参加し、利用者とともに地域に出向く機会も大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市街を一望できる高台にあり、グループホームあかりと法人事務所に併設された、木造2階建ての建物で、玄関は吹き抜けで明るく、家庭的な雰囲気づくりに努めている。運営推進会議には多くの地域住民や退所後協力関係のある家族の参加もあり、地域住民や家族の信頼関係が構築されている。小学校や保育園等の交流に恵まれ、年間を通じて頻りに交流が図られている。経営者も職員の研修の機会を確保することで、質の向上を図っている。医療面では協力医の往診により利用者の健康状態が管理され、重度化が進んでも、さらに、終末期になっても事業所で暮らし続けたいと希望している利用者や家族が多く、高く評価できる点である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 GHしおり

(ユニット名) 空

記入者(管理者)

氏名 伊藤浩明

評価完了日 平成 28 年 10 月 7 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 年に一度介護理念を職員で相談して作成し、常にリビングに掲示して確認できるようにしている。職員が共有し、実践するように努めている。</p> <p>(外部評価) 「共に生きる」という理念を事業所の玄関に掲示する他、毎月発行の便りに理念を掲載し、利用者や家族に周知するよう工夫している。理念についてミーティング等で話し合いを行い、さらに理念を踏まえた各ユニットの毎年の目標を職員と話し合い掲示している。新人職員には、法人の新人研修や事業所のオリエンテーションで、理念の趣旨を説明し共有するようにしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に入り、地域の行事ごとには積極的に参加し、ホームの行事のご案内をしている。高齢者サロンや保育園、小学校との交流が定期的にある。近隣の八百屋、肉屋、魚屋の来訪が定期的であり、馴染みになっている。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、地域との交流に積極的に取り組んでいる。民生委員の方の声かけで、事業所の1階で地域高齢者が集う高齢者サロンを年2回開催し交流をされている。地域のお祭りには、神輿や牛鬼が入ったり、亥の子等、年間の地域行事は利用者の楽しみとなっている。また、小学校や保育園の運動会に参加して、利用者もパン食い競争に出場したりしている。保育園児を招いて駄菓子屋を行ったり、畑で芋の収穫を利用者と一緒に行ったり、定期的に交流が図られている。近隣の八百屋、肉屋や魚屋が訪問販売に来て、利用者は職員と一緒に野菜や肉、魚などの食材選びをするのが楽しみの一つとなっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症の方と介護されている家族さん等、悩みを相談し話し合える機会がある。広報を近隣の方や地域に配布しホームでの暮らしを伝えることで理解して頂いている。認知症カフェ(笑みちゃんカフェ)や運営推進会議などを通して地域の方やケアマネージャーと交流する機会が増えた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヵ月に一度開催し、事業所の取組みやサービス状況を報告するとともに、課題や今後の取組みについて意見交換し、サービス向上に活かしている。運営推進会議に参加したことがない職員がいるのが現状である。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、家族のほか、利用者退所後も協力関係にある家族、市職員、民生委員、保育園長等様々な方の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、行事等の活動報告や地域の情報収集や災害対策等、参加者の要望や意見交換を行っている。欠席の家族には、会議概要を取りまとめて送付し内容を確認してもらっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市の研修や会議には参加している。担当職員との連絡や連携はその都度取れている。運営推進会議では貴重な意見をいただいている。</p> <p>(外部評価) 市職員は運営推進会議に出席し、事業所の実情を把握すると共に情報の提供や助言を行っており、分からないことや疑問点等は相談し、メールや電話連絡を行っている。認知症研修会の開催やグループホーム連絡会等の連絡もあり、参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束について理解しているが、やむを得ずベッド柵をしている方がいる。モニタリング時、必要性について検討し家族とも話し合いをして使用を決めている。建物の構造上死角となっている階段は、転倒防止の為にフェンスとワンタッチの鍵を付けている。エレベーターは自由に使用できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束についてのマニュアルを作成しているほか、研修参加を促進し、参加の職員は職員会等で全員に報告している。また、利用者一人ひとりの状態を職員間で確認すると共に、声かけ等についても十分話し合っている。利用者の安全確保のため、家族に同意の上ベッドからの落下防止等の策を取っているが、利用者はベッドの昇り降りは自由である。玄関は自由に入ることができ、開き戸が開くと1階フロアにチャイムが鳴り、職員の来客対応は迅速である。</p>	<p>職員一人ひとりが利用者の安全を確保し自由な暮らしを支援するために、身体拘束をしないケアについて職員間で話し合う機会を持ったり勉強会を継続するなどし、意識改革を行うなどの取組みに期待したい。</p>

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加し、虐待について理解している。利用者さんの対応で臨機応変に職員が交代したり、否定しない声かけや対応を心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等で制度への理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分な説明と理解に努め、双方納得していただけるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 随時連絡相談し、直接家族に意見を聞いている。家族からの意見は運営に反映させられるようにしており、家族への文書や広報、運営推進会議の中で報告している。 (外部評価) 家族からは、面会時や病院受診時の待ち時間に話を聞くようにしている。利用者には、日々の暮らしの中で要望を聞いている。事業所では毎月広報誌を発行しており、利用者の日々の暮らしや行事の写真を載せて報告している。家族の面会時には、利用者と一緒に食事ができるよう配慮している。	事業所では、夕涼み会等の行事に家族に参加をしてもらい、家族間の交流を図っているが、お互い名前を知らないこともあり、管理者は、家族の意見や要望を出しやすくするため、家族が自主運営する会を持ちたいと考えている。家族同士のつながりを大切にしながら、家族の本音を聞き取り、意見や要望が利用者のケアに反映できるよう、家族会が定期的開催されることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎日、朝夕の申し送りには管理者が立ち合い現状の把握・理解をしている。ホーム日誌を活用し、職員に周知できるようにしている。ユニット会・ミーティングで意見交換を行っている。夜間、施設長と1対1で話せる機会があり、意見を述べやすい。</p> <p>(外部評価) 職員全員と法人代表者の施設長も参加して、毎月1回ミーティングを開催し、運営に関する意見を出し合っている。また、施設長は日常の業務の中で管理者や職員の意見に耳を傾け、気軽に意見が言える環境が整えられている。法人では職員の質の向上を図るため、費用の補助や勤務の調整を行い研修を受けやすくしたり、資格取得も積極的に推進するなど支援している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 人事評価や面接などを通して、職員の意見を話せる機会がある。その都度意見が言いやすい体制が構築されており、勤務の変更など職員同士遠慮なく申し出れるようにしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修には積極的に参加できるよう機会の確保をしている。新任者には、事業所独自のカリキュラムを作成し、新任者研修を実施している。委員会活動により、職員一人一人の活躍の場がある。職員が定着せず、業務の確立が十分でない時期もあった。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 近隣のグループホームの行事や運営推進会議には相互に参加して交流を図っている。協会の相互研修を通じて他のホームの活動を参考にしたり、サービスの質を向上させる努力をしている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前にカンファレンスを開き、職員間で情報の共有をしている。また、入居後は不安なこと、要望などに耳を傾けることができている。関係づくりも少しずつできている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族に要望を聞き職員は共有している。 家族との関係づくりを大切にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要とされる支援について、家族や本人と話し合い、適切なサービスが利用できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来る事を見出し、掃除や調理等参加していただきながら本人が活躍できる場面を作っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の状態の変化や要望など家族へ報告、相談し、今後のことを決めるようにしている。職員間で情報を共有し、家族にもホームの行事に参加してもらい、本人・家族・職員の関係づくりに努めている。面会時は生活の様子を伝えたり、お茶を出すなど会話ができるよう心がけている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容室を利用したり、家族の協力で友人に会いに行ったりしている。家族の面会も多く、自宅で過ごしたり外出し、喫茶店などに寄って帰られる方もいる。	
			(外部評価) 入居時に馴染みの人や場所の情報を家族から聞き取り、関係が継続できるよう支援している。馴染みの美容室等職員が付き添っているが、家族の協力を得てお盆のお墓参りや昔からの友達に会うこともできている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士で馴染みの関係ができてきている方もいる。共に散歩をしたり会話をしたりしている。難聴の配慮をし、席の配置や会話の間を取り持つなど、職員が支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方のご家族が運営推進会議に参加して下ったことがあった。退去先が決まった利用者のカンファレンスを退所先の施設の職員と家族とケアマネージャーと一緒に行情報提供したりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意向を尊重できるように努め、モニタリング等の機会で話し合いサービス提供に繋げている。誕生日には、本人の意向通りに過ごせるように努めている。車いすの方や歩行不安定な方、活発に活動されるかた等様々なので、個々に応じた配慮をしている。	
			(外部評価) 利用者の日頃の会話や家族から情報を聞いて思いや意向を把握し、利用者が何をしたいのか等を常に考えながら支援に繋げている。また、利用者の具体的な様子や場面、言葉やしぐさ等を記録に残し職員間で共有し、誕生日には利用者の意向通りに過ごせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族、ケアマネージャー等から話を聞き、聞いた情報をフェイスシートに記入し、職員が確認できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) センター方式24時間シートに記入し、把握と共有に努めている。気づきがあればその都度、申し送り等により情報を共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者の担当を決め、毎月モニタリングを実施し、全職員で話し合っ て介護計画に繋げている。家族へは事前にご希望等をお聞きしている。	
			(外部評価) 利用者毎に担当者が配属されており、ユニット会で利用者や家族の要 望等をもとに職員全員で話し合い毎月モニタリングを行うなどし、利 用者本位の介護計画に繋げている。介護計画の見直しは基本6か月毎 にしており、状態に変化がある場合はその都度見直している。介護計 画に沿い実践できているかどうかについては、分かりやすいよう記録 に残し、職員全員が共有するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、 職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしてい る	(自己評価) 24時間シートや健康チェックシート等により情報を共有し、介護計 画に繋げている。状態に変化などがあれば、その都度介護計画の見 直しを含め検討している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサ ービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んで いる	(自己評価) 家族が行けない時の通院介助等、介護タクシーの連絡等、本人や家 族の状況に合わせて臨機応変に対応できるようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力 を發揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援し ている	(自己評価) 多くのボランティアの来所があったり、保育園や小学校、地域の行 事に参加できている。地元の魚屋、肉屋、八百屋、スーパー、パン屋 に来てもらい地域の資源の活用に努めると同時に交流を図っている。 芋ほりや駄菓子屋を開き保育園との合同行事で双方の支援に繋げ ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人・家族の意向に合わせて適切な医療を受けられるよう家族と協 力しながら支援している。協力医の訪問診療が月2回ある。24時間 対応可能であり、医療機関との連携は図れている。 (外部評価) 月2回の協力医の往診があるため、入居時にかかりつけ医を変更す る利用者が多い。耳鼻咽喉科や整形外科等の専門外来に通院する場 合は、職員と家族が付き添っている。また歯科の往診もあるが、入 居前のかかりつけの歯科を希望する場合も継続して受診できるよう 配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職場内に看護師がいるため、常に相談報告し、支援に当たってい る。日々の変化はもちろん、入浴時の皮膚の異常や夜間の言動など 注意深く伝え対応できている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時の面会や退院時のカンファレンスを行い、情報交換している。 協力医とも連携しスムーズに治療が継続できている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族や主治医と連携を取りながら、できること・できないことを含 め終末期に向けた方針を共有している。随時家族の意見を確認しな がらともに支援に取り組んでいる。 (外部評価) 重度化した場合の対応指針があり、職員全員が理解し入居時に看取 りの意向を確認し、重度化した場合はその都度説明を行い家族の同 意を得ており、今までに利用者や家族の要望に応え4名の看取りを 行っている。終末期には家族も寝泊りできるような環境を整えるなど の配慮をしている。また重度化や看取りについての研修会に参加し 報告会を行ったり、看取りを経験している職員が話をするなどスキル アップに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) AED、吸引器を配置している。研修にも積極的に参加し、急変や事故発生に備え、対応できるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年3回の避難訓練を実施している。当ユニットが2階のため、避難方法の課題があるが、新しい技法や用具を用いることにより改善に向けて取り組んでいる。 (外部評価) 年3回の避難訓練を実施している。その内1回は併設するグループホームと合同で消防署の立会いで行われている。事業所単独の避難訓練には、地域の消防団に参加してもらい具体的な助言を得ており、協力体制ができています。運営推進会議で防災対策について協議したり、利用者と職員が地域の防災訓練にも参加するなど、地域住民の協力を得られるように努めている。水や米などの備蓄品も完備されている。また緊急連絡網は整備されているが、実践訓練には至っていないので今後の課題である。	災害時の地域の消防団との協力体制は構築され、職員の災害対策についての意識は高いが、緊急連絡網の実践訓練を行っていないため、連絡体制の再確認をする意味でも職員に緊急連絡網の周知徹底を望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 無理強いせず、本人のペースに合わせることで、尊厳やプライバシーを守っている。言葉かけには気を付けるようにしている。 (外部評価) 職員は日頃から「尊敬の念」を持ち利用者本位のケアに努めており、馴れ合いにはならないよう十分気を付けている。入浴やトイレでの排泄時などのケアにおいては、利用者の自尊心を傷つけず意向に沿った支援ができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) こうしてほしいと思いを訴える方が多く、その都度できるだけの努力をしている。自己決定が困難な利用者の方には、思いに沿った働きかけができるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思に沿って対応し、本人のペースを大切にしながら、不安のないように過ごせるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴時等着替えを一緒に選んでもらいその人らしい身だしなみをしている。ボランティア散髪サービスを利用し、散髪や毛染めをホームで行っている。ご自分の好みの化粧品を使ったり、行きつけの美容院に通えるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事中はBGMを流し、ゆったり食べれるよう配慮している。利用者ごとに食べれない物等を把握し、食事を提供している。調理や食器拭きをすすんでして下さる利用者の方もいて、食事をとても楽しみにされている。	
			(外部評価) 施設長が栄養士で栄養管理が十分された献立を立てている。野菜や肉は配達であるが、魚は訪問販売で利用者と職員と一緒に選び利用者の楽しみとなっている。また庭の畑の新鮮な野菜も食材として使っており、利用者も収穫を手伝っている。職員も食卓を一緒に囲み、介助をしながら同じメニューを食べている。利用者の嚥下機能に応じ食事形態を変えたり、病気食を1日1回家族の協力を得て提供するなど工夫している。誕生日に寿司の夕食や祭り等に行事食を作るなど、食事が楽しみになるような支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) お茶の時間は様々な種類の飲み物を準備することで水分補給できるよう努めている。夏場はキーパーにお茶を入れ、いつでも飲めるようにしている。食事形態もそれぞれに応じて工夫し摂取しやすくしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者の個々の能力に応じて促しや介助で対応している。往診サービスでの診断を協力してもらい実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中はトイレ誘導をしている。居室にポータブルトイレを設置し、自立支援に向けている方もいる。排泄パターンや本人の状態に配慮し、排泄の失敗がないよう配慮している。	
			(外部評価) 紙パンツの利用者が多いが、利用者の排泄パターンを把握し極力トイレで排泄できるよう支援している。オムツ交換はまめに行い、残存機能や機能回復を考慮し居室でポータブルトイレを使用するなど、利用者に配慮した柔軟な対応に努めている。夜間は睡眠を優先しているが、トイレでの排泄ができる利用者には可能な限りトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 利用者それぞれに応じて、乳製品など食事の工夫をし、便秘時には投薬でコントロールしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 特浴が設置されていて、誰もが気持ちよく入浴できている。入浴に気分が乗らない方は無理には勧めない。できるだけ本人の体調に合わせて入浴を行っている。	
			(外部評価) 希望に応じ毎日入浴も可能で、利用者の負担に配慮しながら、清潔を保つために週2～3回は入浴できるよう支援している。入浴の苦手な利用者には、時間を変えたり声かけの工夫をするなど、無理強いすることなく入浴できるよう努めている。車椅子利用者の特殊浴槽での入浴、同性の介助を希望する場合の対応、入浴剤の使用やゆず湯、気泡発生装置付特殊浴槽の設置など様々な配慮がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 温度や湿度、布団の種類に気を付けてその時々で対応している。利用者それぞれに応じて、就寝、起床できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の変更やチェックについては情報を共有し、個別に保管している。担当者が1人1人の服薬を調整し、また、服薬時は見守り、確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活でできるなどを設けて積極的に行っている。誕生会や季節の行事などを通して利用者の気分転換や興味のある日を過ごせるよう支援している。活動的なk他は1階の利用者とも交流し、散歩や外出も多い。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の気分や状態、天候などを考慮しながら、本人の希望に寄り添い、職員または家族と外出する機会がある。	
			(外部評価) 花見やドライブ等の外出計画を立て、年間を通して気分転換が図れるよう努めている。日常的には利用者の希望に応じ、商店街に補聴器や時計等の買い物に外出したり、病院受診時に開通した九島大橋までドライブをしている。また事業所の庭の桜を見ながら弁当を食べたり、地域の夏祭りが見物できるようアーケードのいい場所を確保したりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 手元にお金を持っている方が数名おり、その方々の要望に応じて、必要なものを発注したり、買い物に同行している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を持っている人へは、電話を掛ける手助けをしている。その他の方も要望に応じ電話を掛ける手助け、手紙を代筆することもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングでも気持ちよく過ごせるようテーブル等の工夫をしている。廊下の電気は消さず、光に気を付けている。ホールやデッキを利用して広い空間で過ごす方もいる。季節を感じる作品と一緒に作成し、掲示している。	
			(外部評価) リビングルームから庭の芝生広場、宇和島城、市街地や海が眺められ、明るいスペースでゆっくりくつろぐことができる。玄関を入ると2階までが吹き抜けになっており、生け花が飾られソファが置かれるなど、明るく居心地のいい共用空間となっている。2か月毎に利用者と職員と一緒に図書館で本や紙芝居を借りており、廊下にコーナーを作り好きな本を選び楽しめるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食事スピードや相性により座席の配慮やソファを置くことで自由に過ごせる場所の工夫をしている。ホールのソファに座ってゆったりされている方もいる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人に馴染みのもの（鏡台、手作り品、仏壇、テレビ、椅子、ソファ等）を揃えられ、自宅に近い生活空間で暮らすことができている。居室にトイレがある方は大変気に入っている。また、洗面台はお湯が出るようになっている。	
			(外部評価) ベッド、エアコン、クローゼット、洗面台が備え付けられている。愛用のダンスや鏡台、仏壇、テレビ、ソファや椅子等も持ち込まれ、居心地よく過ごせるようになっている。トイレ付きの居室を1室設置しており、利用者の要望に応じ利用できるよう配慮している。居室は開き戸で暖簾がかけられ自室の確認がしやすいような工夫や、1階の居室は掃き出し窓からデッキにも出られるようになっており利用者は気に入っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 車いすや歩行器を使用している方も多いので廊下に物を置かず移動しやすいよう配慮している。トイレ、風呂などわかりやすい看板や文字で表示している。居室の家具の配置も利用者の身体状況に応じて配置している。	